



第183号
2022.6月号

医療法人 済衆館 済衆館病院

〒481-0004 北名古屋市鹿田西村前111番地
TEL.0568-21-0811(代表)
FAX.0568-22-7494

e-mail: saishukan@rio.odn.ne.jp
https://saishukan.com

発行/済衆館病院広報委員会

マンスリー 済衆館だより

裏面:糖尿病の薬は最近とても進化しています

外来診療担当医表(6月)

		月	火	水	木	金	土
内科	午前	横崎 消化器	渡辺 消化器	森 糖尿病・膠原病	鶴見 循環器	吉田(勝) 循環器	柳澤 第1・3・5 呼吸器
		今村(亜) 循環器	橋本 呼吸器	今村(亜) 循環器	渡辺 消化器	戸部 循環器	多田 第1・2・3 腎臓・リウマチ・膠原病
		森 糖尿病・膠原病	下條 循環器	吉田(勝) 循環器	名倉 脳神経機能外科	伊藤(隆) 脳神経	伊藤(隆) 第1・3 10:30~11:30 脳神経
		岡城 循環器	鈴木(重雄) 消化器	横崎 消化器	岡城 循環器	橋本 呼吸器	生田 第2・4 糖尿病内分泌
		舌津 脳神経	伊藤(隆) 脳神経	多田 腎臓・リウマチ・膠原病	吉田(由) 9:30~ 糖尿病内分泌	栗木 第2・3・4 消化器・肝臓	担当医
			吉田(由) 9:30~ 糖尿病内分泌			吉田(由) 9:30~ 糖尿病内分泌	
外科	午前	川崎	今村(康) 外科・総合診療科	安藤	今村(康) 外科・総合診療科	佐藤(榮)	勝野 10:00~
		河合(純) 11:00~	佐藤(榮)	河合(純)	川崎	安藤	河合(純)
眼科	午前	半田	半田 第1・3・4	半田 第1・2・4・5	半田 第1・2・4・5 担当医 第3	半田 第1・2・4 担当医 第3	半田 第1・4 担当医 第2・3
	午後 受付時間	半田 第1・3・4 13:30~15:30		担当医 第1・2・3 13:30~15:30		半田 第1・2・3 13:30~15:30	
小児科	午前	植	植	植	臼井	植	植
	午後	植 15:00~16:00	植 15:00~16:00			植 15:00~16:00	
整形外科	午前	中里	松本	齋藤	中里	中里	松本
		松尾(英)	村山		松尾(英)	栗本 9:30~	佐伯 第1・3 早川 第2・4
歯科・口腔外科	午前	小熊	小木	休診	木下	井上(博)	
美容皮膚科	五島 火曜日 14:00~16:00 予約制 シミ・そばかす・マスクによる肌荒れなどお悩みはございませんか? お気軽にご相談ください。						
皮膚科	午前				休診		

専門外来

	月	火	水	木	金	土
内科	糖尿病内分泌 村瀬 9:00~12:00		糖尿病内分泌 津村 13:00~15:00	禁煙外来 橋本 予約制	老年内科 梅垣 (第2・4) 予約制 14:00~16:30	
	消化器・肝臓 栗木 予約制 13:30~		呼吸器 柳澤 (第3・5) 予約制 14:30~15:30	消化器・肝臓 栗木 (第2・3・4・5) 14:30~		
	IBD/便秘外来 渡辺 予約制 14:00~16:00			腎臓・リウマチ・膠原病 多田 13:30~		
外科	乳腺外科 秋田 予約制 9:00~10:30	緩和ケア 井上(保) 予約制 14:30~15:30	手の外科 平田 (第2・3・4・5) 予約制 14:00~16:00	泌尿器 遠山 14:00~14:30	脳神経外科 飯塚 (第1・2・4) 14:00~16:00	形成外科 担当医 9:00~10:00
	緩和ケア 秋山 13:30~16:00	脳神経外科 飯塚(第1・3・4) 予約制 14:30~16:00	乳腺外科 佐藤 (第1・3・5) 予約制 14:00~16:00	脳神経外科 飯塚(第3) 14:30~16:30	脳神経外科 担当医 (第3) 14:00~16:00	脊髄外科 西村(第1・3) 9:00~11:30
	泌尿器 武東 14:30~16:00	脳神経外科 担当医(第2) 予約制 14:30~16:00	脳神経・脊髄外科 担当医 14:00~16:00	脳神経外科 担当医(第1)	泌尿器 担当医 予約制 14:00~	脊髄外科 担当医(第2・4) 9:00~11:30
	内分泌外科 横井(第1・3) 予約制 15:00~16:00	小児外科 勝野 13:00~16:00		血管外科 今枝 14:00~16:00		泌尿器 鈴木(晶)(第2・4) 9:00~12:00
	内分泌外科 日比(八)(第2・4) 予約制 15:00~16:00					

- ★外来は、原則として予約とさせていただきます。
- ★受付時間 午前8:30~11:30
午後の専門外来は診察時間の30分前からとなります。
- ★診察時間 午前9:00~12:00
- ★都合により担当医師が変更となる場合があります。
- ★急患の場合はお電話ください。
時間外・休日も診察致します。
TEL.0568-21-0811(代表)

健診・ドックセンター

- 人間ドック ●企業健診

- 特定健診 ●特定保健指導

40歳から74歳の健康保険(国民健康保険、健康保険組合、全国健康保険協会、共済組合など)被扶養者(家族)の方も対象となっております。

健診・ドックセンター
TEL.0568-58-1535(直通)

新任医師紹介

救急センター長 武山 直志 先生



地域中核病院として救急診療の充実
は欠かすことができません。患者さ
まの安心と信頼が得られる救急医療
の提供に努める所存です。
何卒よろしくお願ひ申し上げます。

糖尿病の薬は最近とでも進化しています

✿✿✿ 今月はぜひ学んでみたいと思います。糖尿病のお薬のなかで、今回は**飲み薬**のお話です。✿✿✿

糖尿病はもともとアジアに多い病気で、ここ数十年間で国内における糖尿病患者さんは急増しています。そしてそれと並行するかのようによくの薬理作用の異なる飲み薬（経口糖尿病薬）が登場してきました。

良し悪しはともかくとして、欧米では薬剤の使い方については序列があります。しかし、日本では最初はこの薬剤を使うべき、二番目はこの薬剤を使うべきといった序列が基本的にありません。

1 糖尿病薬の歴史

1921年	カナダ人の研究者チームがインスリン分子を発見 糖尿病治療の画期的な技術革新の世紀が幕を開け、多くの命が救われた	1990年代	アルファグルコシダーゼ阻害薬 チアソリジン誘導体が登場
1923年	大正12年、日本で初めてインスリン療法が導入される	2000年代	DPP4阻害薬 グリニド系薬剤が登場
1950年代	ビグアインイド剤 スルフォニルウレア剤が使用され始める 最も古い糖尿病内服薬	2010年代	GLP1受容体作動薬（注射薬） SGLT2阻害薬が登場
1956年	日本の臨床試験にカルブタミドが入り、スルフォニルウレア剤を初めて使用した	2021年	GLP1受容体作動薬（飲み薬） イメグリミン塩酸塩錠が登場

2022年6月現在日本では9種類の飲み薬が医療現場で使用されています。

①ビグアインイド剤 ②スルフォニルウレア剤 ③アルファグルコシダーゼ阻害薬 ④チアソリジン誘導体 ⑤DPP4阻害薬
⑥グリニド系薬剤 ⑦GLP1受容体作動薬 ⑧SGLT2阻害薬 ⑨イメグリミン塩酸塩錠

2 欧米における第一選択薬「メトホルミン」

ビグアインイド剤のなかでもメトホルミンという薬については、その優れた経済性と優れた臨床効果（心臓血管イベントリスクを減らす/一部のガン発症リスクを減らすなど）が明らかになりました。

3 最近の飲み薬とその特徴

かつて頻用されていた（それしかなかった）スルフォニルウレア剤とインスリン注射には1.低血糖の危険性 2.体重が増加する、の2つの問題がありました。

また1990年代に登場したアルファグルコシダーゼ阻害薬およびチアソリジン誘導体は副作用として重症肝障害が問題になり、チアソリジン誘導体は一部販売が中止になりました。

現在国内で最もよく使われている飲み薬である**DPP4阻害薬**という薬には1.低血糖をほとんどおこさない、2.体重増加をきたさない、3.肝障害のリスクもほとんどない利点があり糖尿病が専門でない医師でも処方（薬物治療）がしやすい環境となっています。

DPP4阻害薬に次いで最近非常によく処方されている飲み薬に、**SGLT2阻害薬**という薬があります。

SGLT2阻害薬の特徴

- ① 低血糖をほとんどおこさない
- ② 体重減少（やせ）効果を有する
- ③ 血圧下降作用を有する
- ④ 利尿作用などにより心不全による入院回数を減らすことが期待できる
- ⑤ 脂肪肝を改善する可能性が高い
- ⑥ 糖尿病性腎症による蛋白尿を減らす

4 経口糖尿病薬と体重減少効果

これまで糖尿病の飲み薬については体重減少（やせ）が期待できる薬はひとつもありませんでした。それが**SGLT2阻害薬**と後述する**GLP1受容体作動薬**の登場で、血糖値を改善する（下げる）薬剤から血糖値と体重を下げる治療が可能になってきました。とくに体重減少（やせ）願望の強い肥満女性と心臓に疾患を抱える糖尿病患者、高血圧を合併した糖尿病患者さまを中心に幅広くSGLT2阻害薬が使われるようになりました。

5 新しい経口糖尿病薬

SGLT2阻害薬同様に体重減少（やせ）が期待できる飲み薬として**GLP1受容体作動薬**という薬があります。注射薬としての登場はDPP4阻害薬の登場（2009年12月）と同じ時期ですからそれほど新しい薬ではありません。SGLT2阻害薬と異なる作用は①体重減少（やせ）に加えて、②脳と消化管に作用して食欲を抑え込む作用もあることです。ときに10kg以上の体重減少（やせ）がみられることから昨今は美容外科でも取り扱われています。

6 高齢の方へ注意

最後に、これまで飲み薬を中心に解説してきましたが、糖尿病治療の中心は**食事療法と運動療法**であり、薬はあくまで補助であることは言うまでもありません。ここではとくに高齢者の過食（食べ過ぎ）についてあらためて注意喚起をしたいと思います。

一度身についた過食癖を直すことは高齢の方でも容易ではありません。若いときと同じような食事内容でも臍臓はある年齢を境に突然インスリン分泌が低下し2型糖尿病は突然発症あるいは著しく悪化します。栄養のバランスを考えて食事をとり、食べ過ぎを慎む習慣を身に付けて肥満と糖尿病を予防あるいはコントロールしながらいつまでも元気で過ごしたいものです。



糖尿病などの症状やご不明な点がありましたら、お気軽に受診してご相談ください。

副院長 糖尿病内分泌内科 森 康一

➡ 次号は「腹腔鏡によるヘルニア手術について」です

- 5月31日(火)～6月6日(月)禁煙週間 ●6月1日(水)～6月30日(木)リウマチ月間
- 6月1日(水)～6月7日(火)HIV検査普及週間 ●6月4日(土)～6月10日(金)口と歯の健康週間
- 6月19日(日)父の日 ●6月21日(火)夏至

四字熟語

螢雪之功(けいせつのこう)

苦しい環境の中で勉学に励むこと。

■ 第183号 2022.6月

■ 発行/済衆館病院広報委員会

医療法人 済衆館 済衆館病院

TEL.0568-21-0811(代表)

〒481-0004 北名古屋市鹿田西村前111番地
e-mail: saishukan@rio.odn.ne.jp https://saishukan.com
FAX.0568-22-7494